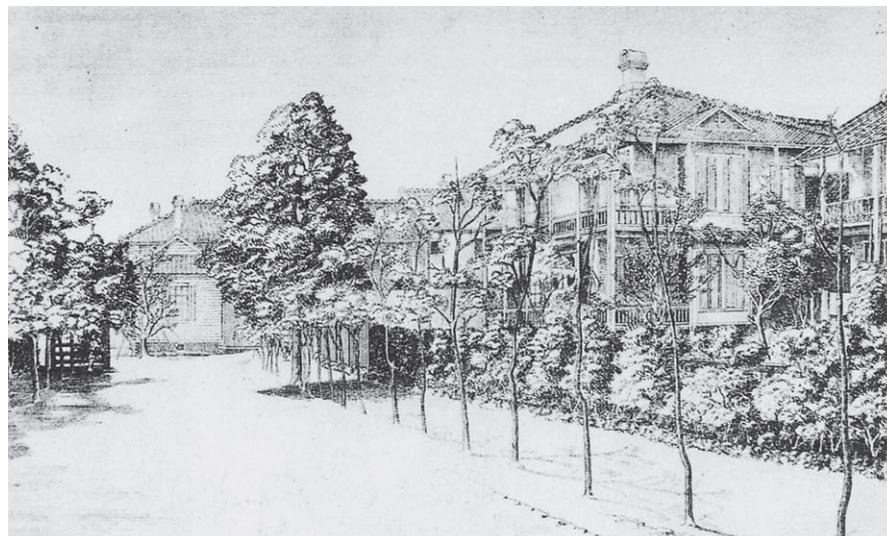


同志社医学教育の歩み

—同志社病院と京都看病婦学校—

2015年4月、同志社女子大学看護学部が発足する。
源流である京都看病婦学校と同志社病院を中心に、
同志社医学の歩みを振り返ってみる。



同志社病院と京都看病婦学校

出席者

もと い やす ひろ
本井 康博
おかやま やす こ
岡山 寧子

(元大学神学部教授)

(女子大学現代社会学部教授、
2015年4月看護学部教授・学部長就任予定)

司 会

いしかわ りつ 立
石川 立

(大学神学部教授、同志社広報委員会小委員会委員長)

医学教育にかける新島襄の夢

石川 ●このたび、同志社女子大学に薬学部に続いて看護学部が開設されます。同志社大学では、すでに生命医科学部、大学院には脳科学研究科もあります。最近になって医学関係の学部、大学院が増えた感がありますが、もともと新島襄には医学部創設という夢がありました。このような構想は、いつ頃生まれたのでしょうか。

本井 ●わりと早くから抱いていたと思います。ただ、同志社の開校時に、W・テイラー（医療宣教師、つまり医師）を大阪から招いたことがその証拠、とされたりします。でも、これは極論です。



本井 康博
元大学神学部教授

現実には、同志社を大学に昇格させる機運が生まれてからでしょうね。その後、医学部や看護学部、それに病院を作る夢が、彼の頭の中にくっきりと現われてきたのではないのでしょうか。

石川 ●それと同時に、病弱だった新島の個人的経験も関係しているのではないかと医師や看護婦（現・看護師）との接触があった中で、医学教育に関心が深まったのではないのでしょうか。

本井 ●それは確かですね。新島自身、「自分は病気の問屋」とさえ言っていました。リウマチやら心臓病、眼病など、二桁の病気に悩まされました。だから、医学への関心も人一倍、強かったと思います。

石川 ●入院や治療体験は、どうですか。
本井 ●江戸でのことは、例の額の傷の手当くらいしかわかっておりません。新島が本格的な近代医療に最初に触れたのは、密出国するために渡道した時で、箱館のロシア病院でした。

新島は称賛しています。病室は清潔だし、入院患者の服も清潔に保たれ、シートも毎日、取り替えられる。食事患者に合わせたメニューが提供されている。

授業もきめ細かく、治療費はすべて無料。それに対して、日本の医者や病院は実に酷い、と嘆いています。

石川 ●海外生活は10年に及びますが、その間の医療体験で、何か目立つものがありますか。
本井 ●新島は外国でも入院経験があります。アメリカではニューヨーク州のサナトリウム、ドイツでは温泉療養施設に、それぞれ長期入院しています。

こういう病院や療養所での患者体験のほかにも、1872年、岩倉使節団の通訳としてロンドンに行った時、聖トーマス病院を訪ねています。日本人として非常に早い視察でしょうね。

岡山 ●「近代看護教育の母」といわれるフローレンス・ナイチンゲールが、1860年に看護学校を開いた病院ですね。
石川 ●他に新島の医学教育への情熱を後押ししたものが、ありますか。

本井 ●当時の日本の医療事情も、影響しているような気がします。とりわけ、新島には、青年教員の山崎爲徳（たのりのり）の入院が、大きな悩みでした。適切な看護をしてもらえない不満です。

石川 ● 山崎爲徳のことをもう少し……
本井 ● いわゆる「熊本バンド」随一の秀才で、今の東京大学の前身、開成学校から同志社英学校に転校し、卒業後すぐ教授になった人です。新島から大変信頼、期待された人ですが、肺結核にかかり、24歳で亡くなります。

入院したのは京都府立の病院です。が、新島はそこでの看護に不信感を抱き、ついに彼を自宅（現・新島旧邸）に引き取ります。以後、彼が亡くなるまで、4カ月ほど新島夫妻、学生たち、肉親が交代で看護しました。

こうした経験からも、治療や看護が行き届く理想の病院や看護学校を作りたいという思いが、新島の中で、なにかしかならんたのではないかと思えます。

山崎が亡くなったのは1881年11月です。最初の大学設立のための趣意書、「同志社大学設立の主意之骨案」が出されるのが、翌年11月のことです。

石川 ● 新島にとっては、アメリカの大学がモデルだったと思いますが、総合大学といえば神学部、法学部、医学部が三本柱ですね。そういう意味では、新島の大

学構想に医学教育があったのでしよう。医学部構想は、大学の体裁を整えるだけでなく、病人救済という点で、新島個人の切実な願いもあったのでしようね。
本井 ● 趣意書を出すちょうど1年前（1881年10月）に、「大和の山林王」と呼ばれた土倉庄三郎から五千円の寄付金をもらいますね。法学部を作ってほしいという指定献金でした。大学構想に法学部が入る大きなきっかけになりました。
 山崎の看護と死を経験したのは、これとほぼ同時ですよ。ということは、以上の二件は、新島が、翌年初頭から神学部、法学部、医学部を備えた大学を実現するために募金活動をさっそく開始している事実と、あながち無関係ではないような気がします。

手始めに病院と看護学校

石川 ● ここで病院と看病婦学校の歴史と理念を改めて整理してみましよう。同志社病院と京都看病婦学校は同時に発足しました。看病婦学校については、京都府に設置の届けを出したのは1887年で

すが、看護教育を開始したのは1886年秋です。少しずれがありますね。
本井 ● 実質的に始まった年を起点（開設年）として、よいのではないのでしょうか。例えば同志社英学校は、認可がおりたのは1875年8月ですが、授業を始めたのは11月29日でした。同志社は、後者を創立記念日としています。
岡山 ● 京都看病婦学校は、1886年の秋頃から看護教育が始まり、1888年には初めての卒業生を出します。新島の死後、医師の佐伯理一郎が経営を同志社から引き継ぎます。その後、産婆学校を併設するなどの経過を経て、1951年に最後の卒業生を送り出しました。65年の歴史です。卒業生は、2000人を越

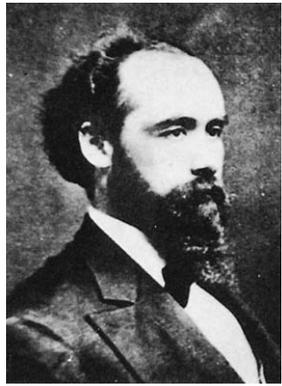


岡山 寧子
 女子大学現代社会学部教授、
 2015年4月看護学部教授・
 学部長就任予定

えるといわれています。

本井 ● 日本最初の看護婦養成機関は、1885年に設立された有志共立東京病院看護婦教育所、現在の慈恵看護専門学校ですよ。とすれば、京都看病婦学校は日本で2番目の看護学校でしょうね。

石川 ● スタッフはどのように集めたのですか。
本井 ● 日本ではいまだ専門家が皆無か、極少の時代ですから、有資格のアメリカ人宣教師を国内外から招きます。医師で宣教師のJ・C・ペリーが岡山から、看護婦のリンダ・リチャーズがボストンから、まっさきに呼ばれます。彼らの人件費は、ミッション（アメリカン・ボード）が持つてくれました。



ジョン・C・ペリー

石川 ● ペリーが同志社病院の院長になったことは、よく知られていますが、看病婦学校の校長は、誰が務めたのですか。
本井 ● 京都は居留地じゃないですから、外国人は法的には無理でした。病院理事長と同様に、トップは新島以外、考えられません。ただ、府への開設伺では、リチャーズを校長にしています。が、「同志社百年史」（通史編1）が記述するよ

岡山 ● 最初は5人の学生を集め、リチャーズとペリー、女医のS・C・バックリを中心にしてスタートしました。当時の看護教育は、1日に数時間は授業を行い、あとは病院で看護を実践するというものでした。リチャーズが病院に行く時は、学生も同行し、スタッフと一緒に看護を実践したと思います。そして先輩学生が技術的に慣れてくると、新入生の指導を行うという形だったようです。
 石川 ● 同志社英学校みたいですね。上級生が下級生を指導する。
岡山 ● そうですね。

石川 ● この点は、なかなか悩ましいところですね。
本井 ● 学校規則にある「校監」が、リチャーズのことを指すと思われれます。これに対して、新島はいわば「校長（理事長）」として、彼女に実質的な「校長」の仕事

を任せたと考えたいですね。実際に看護教育の責任者を務めたのは、資格のあったリチャーズですから。
岡山 ● 英語では「スーパーインテンデント」、つまり「看護監督者」という肩書きでした。今で言えば病院の看護部長で、実質的に責任者という立場でした。
石川 ● 開校時の教育態勢はどのような内容だったのですか。

を任せたと考えたいですね。実際に看護教育の責任者を務めたのは、資格のあったリチャーズですから。

「同志社病院の看護婦は英語に堪能だ」と評判になり、京都に来た外国人が病気になる、彼女たちを呼びに行くことが多かったそうです。

石川 ● 学校はどこにあったのですか。
本井 ● 最初は同志社教員のJ・D・デイヴィス邸に間借りし、その周辺地を買い増します。授業を始めた翌年の1888

増します。授業を始めた翌年の1888



石川 立
大学神学部教授、同志社大
報委員会小委員会委員長

7年、学校と病院の建物が竣工します。現在のKBS京都の所で、御苑の蛤御門の向かいです。病院も同じ場所にありました。

岡山●リチャーズもそこに住みながら、看護実践と教育を行いました。

本井●学校と病院は木造2階建てで、写真で見ると、きれいですね。英文の年次報告には、見取り図も入っています。

石川●当時、京都には看護学校はなかったそうですが、病院や医学部はどうだったのですか。

本井●公立では今の京都市立医科大学の前身、京都療病院・医学部です。私立では有名な医学部が二校。汎愛医学部と、大村達齋という医師が開いていた洞酌医学部です。

石川●同志社病院は、どのくらいの患者を診ていたのでしょうか。

岡山●ミッシヨンの各年次の報告には、外来患者が1年間で何百、何千人という数字があります。いい治療してもらえない病院、特にペリーは眼科が得意だったので、眼科の患者がとても多かったそうです。白内障の治療が評判を呼び、地

元新聞にも「ばつとよく見えるようになった」という話などが紹介されたそうです。もちろん産科、内科もあり、総合病院でした。

「愛心」をベースに

石川●では、次に活動・教育内容に入っていきます。

本井●新島が大学設立の趣意書を出す契機として、前に挙げた土倉や山崎の動向以外にも、大事な動きがありました。

趣意書を出す前年ですが、市内の公立医学部の存続問題が発生し、同志社に引き継がせる話が、浮上します。京都府が、建仁寺境内の一寺院を借りて作った医学部を、同志社へ譲渡するという話です。が、最終的に府議会は、府税で継続という結論を出します。

その翌年、今度は大村達齋から、洞酌医学部を新島に譲るとい話が出ます。ですが、この話は、大村の勇み足でした。医学部のスタッフたちの反対に遭って、ドタキャンになりました。新島は相当に怒ったそうです。

を非常に大事にしました。

石川●さすが、新島は牧師ですね。

本井●新島だけじゃなくて、彼の後継者とも言うべき佐伯もそうです。同志社病院を引き継いだ佐伯のモットーは、「受

くるよりは与えるほうが幸いである」です。佐伯の旧宅跡（KBS京都西隣り）には、今も「受るより與ふるは福也」と刻まれた石碑が立っています。

石川●「使徒言行録」20章35節の有名な聖句ですね。

岡山●看病婦学校設立の目的として、新島は、3つを挙げています。最初の「病人の苦痛を救うこと」は、やはり「愛心を以て」に通じると思います。2つめは「看病人を養成すること」。最後は、「病人の心を慰めること」。病人の気持ちになつて看病することをしっかり勉強するように、とエールを送っています。

新島はこうも述べています。「看病婦の熟練したるものは、医者の方よりも大切な事」。看護の力は凄く、熟練といっても機械的な熟練ではなく、精神的な熟練が必要だと。心に寄り添える看護が大事だと言っています。これは現代に

石川●それにしても、不思議な巡り合わせですね。

本井●偶然なのですが。しかし、大学趣意書の前後にこうした動きが起きたことは、医学教育への新島の情熱に火をつける結果になったと思われれます。

そこで、新島は次にミッシヨン（アメリカン・ボード）に諮り、同志社独自の施設を実現しようとしています。他の公立や私立にはない独自のキリスト教主義病院や看護学校を作りたい、という新島の熱い思いが、底流にあつたと思います。

石川●当時、日本には医学部はまだなかったのですか。

本井●いいえ、すでに帝大（現東京大学）にありました。政府の方針もあり、ドイツ医学が主流です。これに対して新島は、英米系医学の病院や学校も欲しい、と考えていました。ドイツ人医師はとかく反キリスト教的でしたから。

そこで、岡山県医学部のお雇い医師、アメリカ人宣教師のペリーに持ちかけます。彼も、帝大医学部を卒業した医師が、岡山につきつぎと赴任して来ることに不満を感じていました。そこへ新島から、

も通じる看護のあり方ですし、キリスト教の心なのだろうと思います。

患者本位

本井●私もその点は同感です。3つの目的のうち、なんと2つは患者に関わることなんです。看護学校であれば、本来なら真先に「熟練した看護婦を育てる」ことを主目的とすべきです。ですが、新島の趣意書では、なんと二番手になっています。新島らしいですね。

要するに「患者本位」の教育をしたいのです。こういうところにやはり、新島自身の信仰や「愛心」（隣人愛、さらには患者としての自己体験が窺えますね。

岡山●患者のそばで働くのにふさわしくない看護婦の例も、具体的に書かれています。これも自身の患者体験から来るものではないでしょうか。

石川●医学という病気を治すことに目が行きがちですが、患者、人間が対象なんです。

本井●そうですね。繰り返すと、どこまでも「患者本位」です。



リンダ・A・リチャーズ

看護教育のパイオニア、
リンダ・リチャーズ

石川●看病婦学校の責任者を務めたリンダ・リチャーズについて、もう少し詳しくお話しいただけますか。

岡山●彼女はアメリカで最初に訓練を受けた有資格看護婦で、近代看護史の上でも有名な方です。

本井●アメリカでは、America's First Trained Nurseと通っていますよね。

岡山●そうですね。アメリカ初の看護学校がどこなのか、議論もあるのですが、リチャーズはニューイングランド婦人子ども病院の看護学校出身です。これは女医により教育された看護学校です。187



「療病院開業式」(同志社史資料センター所蔵)と山本覚馬(右ページの2行目)

八重の兄)の働きも大事ですね。

覚馬は同志社のある式典で学生に向かつて、「貧民の友となるように」と勧められています。新島も、同じ意味で「下民」という言葉を使っています。今で言えば「市民」でしょうか。この点でも、二人は同じ人間観を持った類まれな「同志」でした。

この覚馬が、門弟のひとり、明石博高ひろたかと始めたのが、先ほどの京都療病院設立です。これはいくつかの有力寺院が府に協力して作った府立病院です。しかし、この直後に覚馬は新島に出会い、キリスト教の影響を次第に受けて、仏教から離れて行きます。

岡山●覚馬が療病院設立に尽力した理由は、何でしょうか。

本井●京都府(知事)顧問として、「町おこし」の一環で始めたのでしょうか。

彼は地元の名士、特に有力な府会議員に顔が効きましたから、教会以外の一般市民からの寄附を得るのに、絶大な力を発揮します。それを考慮したからでしょうね、新島は、「同志社看護婦学校」の名を避けました。ちょうど、大学設立の場

合も、当初は「明治専門学校」でいこうとしたのと、同じです。

覚馬自身が、身体に障がいをもっていたことも、大きかったと思います。幕末に長崎に行った時には、目の治療を受けていますね。長崎で知り合った外国人医師や商人を維新後、京都府に招いています。これも重要な人脈になりました。

岡山●覚馬にも、やはり患者体験があったのですかね。

本井●医学や医療面の関心は、もともと高かった人ですね。彼の「管見」を見ても、それがうかがえます。のちに山本家から看護婦が数人出るのも、覚馬の力やアドバイスによるところが大きかったと思います。

中でも、もつとも有名なのは、もちろん新島八重です。が、覚馬の娘の久栄、彼女はカトリックに改宗して、看護活動を手伝います。ほかに、山本家の長女の娘2人、八重の3人の養子のうち1人が看護婦になっています。

覚馬は私的な部分でも、医療に関心があつたのでしょうか。新島は良い人と組んで病院や看護教育を始めたと思います。

0年代ですから、アメリカでも病院付属の看護学校が増えていった時代でした。

その中で、彼女はいくつかの病院の看護監督者を歴任しますが、「看護教育がしたい」という思いが徐々に強くなり、ロンドンのナイチンゲールのもとへ行き、研修を受けます。

ナイチンゲールは、近代看護教育の基礎をつくった人でしたから、リチャーズは最新の看護教育を身につけてアメリカに戻りました。その後、ボストン市立病院の看護学校で看護監督者を務めて成功します。

石川●それが、なぜ日本へ……

岡山●その頃に、アメリカン・ボードが日本に看護学校をつくるという話が、聞こえてきたのではないのでしょうか。それを自分の務めだと考え、京都へ行き看護教育に尽くそうと決めたようです。

本井●おそらくベリーの指名でしょうね。

岡山●彼女は1885年12月にアメリカを出航し、翌年1月、日本に着きます。ただ、当時は来日した宣教師や家族が、健康を害することがよくあったようで、リチャーズはその人たちの健康管理も頼

まれていました。来日間もない頃、重い病気にかかったJ・D・デイヴィス夫人の上海への療養に同行し、現地で看護をしています。ですから、実際にリチャーズが看護教育を開始したのは、その年の9月頃ではなかったかと思われます。

ナイチンゲールから直接教わった看護教育をきちんと実践しようとした足跡が、多くの史料に残されています。

石川●世界的にみても最前線の看護が、日本に入ったのですかね。

岡山●1920年にL・L・ドックとI・M・スチュワートによる『A Short History of Nursing』という本が、アメリカで出版されました。看護歴史書としては有名な書籍かと思えます。その中に、世界のどの国にナイチンゲールの看護教育が広がったのかを示す図が、掲載されているのですが、「日本は京都」と書かれています。

本井●えっ、同志社が一番古いんですか。

岡山●京都看病婦学校は日本では2番目に開校した看護学校なので、そのあたりの記述については、色々議論があるところですが、実際にリチャーズを通して、

ナイチンゲールの看護教育がしっかりと
なされたわけですから、世界的に見ても
最先端であったことが、うかがわれます。
本井 ● 共立東京病院看護婦教育所には、
外国人の指導者はいなかったのですか。
岡山 ● アメリカから伝道で来日していた
M・E・リードが、看護教育を約2年間
担ったということです。残念なことに、
どのように看護教育を行っていたのか、
その詳細は、あまりわかっていないよう
です。それを考えますと、同志社の病院
と看護学校にリチャーズが来たのは、大
きな意味がありました。

本井 ● リチャーズはアメリカの有資格看
護婦第1号ですから、すでに重要なポス
トにも就いていた。だから、アメリカで
もパイオニアとして必要とされた時代だ
ったはずですよ。なのに、この分野では実
績ゼロの京都へ来てくれた。これは凄い
ことですよ。

ただ、同志社にとって複雑なのは、彼
女が同志社に来たのは看護教育がすべて
とは言えなかった点です。宣教師として
の目的が、相当大きかった。意識として
は、「ミッシヨナリー・ナース」だった

先進的な看護学校の卒業生でしたので、
継続的に質の高い教育が実践されたと思
います。

石川 ● 最初からレベルの高い看護教育だ
ったのです。同志社はどうして閉鎖し
てしまったのですか。

本井 ● 新島の後継者たちが、ミッシヨ
ンへの依存や従属を嫌い、同志社を独立さ
せたかったからです。人も資金も絶たれ
るわけですから、看護学校も病院も、成
り立つはずがありません。

岡山 ● 先にも述べましたが、新島の死後、
学校は佐伯に引き継がれます。産婆学校
を併設するなど発展し、戦後まで生き延
びます。しかし、GHQ（連合軍総司令
部）の改革により看護教育制度が大きく
変わり、その変化に対応することが困難
になったため、閉校されてしまいました。

卒業生たちの働き（一）

石川 ● その65年の歴史の中で、京都看
婦学校は大勢の卒業生を出しています。
著名な方を何人か紹介してください。

本井 ● 一番有名なのは、不破ユウでしょ

うです。

岡山 ● そうです、宣教看護婦ですね。自
分は早くしかるべき人に看護の仕事を任
せて、伝道に力を入れたいと思っていま
した。ただ、リチャーズがアメリカに帰
国した後、今度は逆にミッシヨナリーの
色は、ほとんど見えません。このあたり
のリチャーズの心の動きをどのようにと
らえるのかは、もう少し検証しないとわ
からないところですよ。

一つ考えられるのは、日本で看護教育
をするのは、相当大変だったのかなとい
う点です。日本語が全然できませんでし
たし、文化も全く違うものだから、苦
勞の連続だったと思います。言葉もわか
らない中で看護を教え、実践していつた
のですから。心身共にかなり疲弊し、看
護教育から少し距離を置きたかったのか
もしれません。

学生のユニフォームも彼女の手作りで
す。それも初めての経験だったようです。
同志社女子大学の先生方が再現されたも
のが、現在、女子大学の史料室（ジェー
ムズ館）に展示されています。とてもチ
ヤミングで、当時の息吹を実感します。

う。看病婦学校の2期生です。

岡山 ● 旧姓を北里ユウといい、北里柴三
郎の親戚です。夫の不破唯次郎は、熊本
洋学校から同志社英学校に進学してきた、
いわゆる熊本バンドの一人です。ユウも
北里も熊本出身です。牧師の夫を助けて、
ユウは各地で伝道にも従事しています。
彼女は、新島の最期を大磯で看取った
一人です。

そして、京都帝国大学医科大学附属病
院（現・京都大学医学部附属病院）が出
来ると、初代看護婦長に就任しています。
今の看護部長です。

ユウは、京都看病婦学校の同窓会長も
いたしました。母校が同志社の手から離
れてしまう時には、同窓会長として嘆願
書も出しています。2期生なので、リチ
ヤーズからしっかり教育を受けていたと
思われます。

本井 ● 北里柴三郎は熊本医学校出身で、
同期の大久保真次郎と一緒に東京帝国
大学の医学校に進んでいます。ですが、
大久保は「魂の医者になりたい」と言っ
て同志社に転校してきます。
すると、熊本バンドが同志社を牛耳つ

石川 ● ユニフォームはアメリカで使っ
たのと同じタイプですか。

岡山 ● そうだろうと思います。当時のア
メリカではよく見られるユニフォームの
形です。ただ、足元だけは草履ぞうりでした。
西洋の靴は、音がしてうるさいから、草
履のほうがいいと。

石川 ● リチャーズは、同志社には何年い
たのですか。

岡山 ● 1886年1月に来日、1890
年10月に日本を離れています。来日して
から2年程で体調を壊し、しばしば転地
療養などをして、休養を繰り返していま
す。京都での滞在は3年程ではなかった
かと思いますが。実質的な看護教育はこの
期間でした。

本井 ● 新島によれば、リチャーズやペリ
ーが着任した頃、たまたま市内でコレラ
などの伝染病が蔓延したので、資格と技
量を備えた看護婦や医者が必要性が急速
に高まったといえます。これまた同志社
への追い風ですね。

岡山 ● その後、リチャーズに次いでV・
V・スミス、H・E・フレージャーが京都
にやって来ます。2人ともアメリカでは

ているじゃありませんか。熊本では、医
学校は洋学校（熊本バンドの出身校です）
に隣接していましたから、すでに相互に
よく知っている間柄です。大久保は義憤
を感じて、徳富蘇峰ら下級生グループ（彼
らは、同志社内の不平派でした）のリー
ダー、いや黒幕になって暴れるんです。
石川 ● 熊本洋学校は、熊本バンドの名前
と共に、同志社では有名ですが、医学校
も同志社と関係があるんです。
本井 ● そうなんです。大久保や北里のほ
かにも、熊本医学校から帝大へ行った卒
業生に浜田玄達という人がいます。

日本の産婦人科医のパイオニア、大御
所で、産婦人科医となった佐伯の、いわ
ば恩師のような存在です。佐伯宛ての手
紙も二十余通、残っています。この点、
熊本洋学校と熊本医学校は、ともに同志
社に深い関係があるんです。

石川 ● 熊本洋学校と言え、ジェーンズ
ですが……

本井 ● 洋学校のお雇い外国人ですね。ア
メリカから呼ばれた元軍人、L・L・ジ
ーンズ。一方、熊本医学校は、長崎に
いたC・G・ヴァン・スフェルトという

オランダ人医師を招きます。

この人はその後、覚馬から声を掛けられたのか、京都に来て、京都療病院の医師になり、医学校でも教えます。ただ、諸種の理由で、まもなく解任されました。もしマンスフェルトが京都にそのまま残っていたら、熊本バンドが牛耳っていた同志社は、彼を病院や看病婦学校に招いたかもしれないね。

岡山●北里も看護教育に尽力しました。1897年、彼が設立した結核サナトリウム養生園の敷地内に看護婦学校を開校しています。この養生園の幹部看護婦には、それ以前から京都看病婦学校の卒業生が継続的に迎えられていました。4期生小池（家村）コウ、5期生齋藤ミチ、6期生白坂（井上）シゲ、10期生栃原シズなどです。

本井●びっくりするような布陣ですね。**岡山**●当時、すでに東京には東京慈恵医院医学校看護婦教育所などがあつたにもかかわらず、わざわざ京都から看護の人材を呼び寄せたということになります。北里が佐伯と同郷で、熊本医学校の先輩・後輩という関係であつたことや、不破ユ

ウとの関係などがあつたのかもしれない。いずれにしても、看病婦学校の卒業生たちが、北里からとても高い評価を受けていたことは、確かですね。

石川●興味深い話ですね。

本井●大久保真次郎あたりからも情報が入っていた、とも思われます。

石川●北里にとつて、同志社はモデル校だったのかもしれないね。他にはどんな卒業生が……

本井●最近話題になった卒業生では、9期生木下八重です。昨年、NHKTV「歴史秘話ヒストリア」で、「パリナースたちの戦場」看護婦が見た世界大戦の真実」というのがありました。その一員です。ただ、番組では木下の名前は出てこなくて、残念でした。

岡山●第一次世界大戦の時に、日本赤十字社は救護班員をパリへ派遣しました。その中に京都看病婦学校出身の木下八重がいました。「ヒストリア」では、彼女たちの看護が、フランスでは非常に高く評価されたと伝えていました。

私たちは彼女のことを密かに「三人目の八重さん」と呼んでいます。新島八重、

ハンセン氏病患者の救済に生涯を捧げられた、同志社女学校出身の井深八重、そして木下八重です。

石川●木下のケースも、世界的にレベルの高い教育が行われていた証ですね。

岡山●同窓会誌などで看病婦学校の卒業生の動向を調べますと、就職先として一番多いのは、病院です。同志社病院をはじめとする府内や大阪、兵庫、名古屋などの病院です。多くは指導的な立場を担っていたのではないかと思います。また、当時「派出看護」「巡回看護」と呼ばれていた、今風に言うところの訪問看護に携わった卒業生も多いようでした。

また、看護学校の教員になったり、産婆を開業したり、伝染病などの予防教育に携わる者もいました。当時は日清・日露戦争など戦争に突き進んだ時代でしたので、従軍看護婦として戦地で看護に当たった人も。また産業革命が進行中でしたから、工場などで従業員の健康管理を担う産業看護に従事する人もいました。

石川●木下八重以外にも、外国で活動した看護婦は、いますか。

岡山●5期生の谷村カツが典型です。日でした。惨状を目の当たりにして、「これは救護に行かない」と思ったらしいです。関東大震災をはじめ、他の大きな災害にも同志社の医療チームが救援に行っています。

阪神淡路大震災や東日本大震災でも、組織的な看護活動の重要性を私たちは思い知らされていますが、そうした動きは明治時代からこのような経過をたどって発展してきたわけです。

石川●よく訓練され組織化されていないと、急に動けませんからね。そのように高度な教育を受けた京都看病婦学校の卒業生は、他の学校でも教育に携わったのですか。

卒業生たちの働き (二)

岡山●まだよく把握できていませんが、先に述べた北里が設立した看護学校などは、そうだと思います。

また、第二次世界大戦後にGHQによる看護改革を行っていく際、井上なつゑが日本側の主要メンバーになります。彼女は京都看病婦学校で学んでいます。や

本人が多く移住したハワイで活躍しました。ハワイに住む妹スエ（同志社出身の牧師、神田重英の妻）の出産手伝いに、ハワイに渡ったのですが、そこでの日本人への医療活動の必要性を痛感し、そのままハワイに残り、日本人のための病院で約5年間、働きました。その後、卒業生が何人も続いてハワイで看護に従事しています。中国や韓国などで活躍した人もいます。

不破ユウのように、牧師と結婚して一緒にいろんな土地に行き、そこで福祉や教育に携わった人も多くいます。例えば岡山孤児院長を務めて「児童福祉の父」と呼ばれた石井十次と結婚した5期生の辰子（辰喜）。医療だけではなく、孤児の養育にも力を注ぎました。また、7期生の寺島信恵は神戸で老人福祉に尽力しています。

このように子どもの教育、予防的な保健、福祉分野など、先駆的に頑張った卒業生も、大勢います。

災害医療

本井●災害時の医療の取り組みも、同志社病院は早かったですね。

岡山●そうですね。日本で組織的な災害医療が始まったのは明治時代です。一番最初が1888（明治21）年、磐梯山噴火の救援です。1890年に和歌山の大島沖でトルコ軍艦エルトゥールル号が遭難した時は、日本赤十字社の看護婦が駆けつけています。

翌91年に濃尾地震が起きた時は、看病婦学校が開設して5年目でした。岐阜県で約5000人もの死者が出た大災害でした。ペリーはすぐに卒業生5人、学生4人と共に現地に赴き、地震発生後の6日後には大垣市で救援活動を始めています。**本井**●同志社のほかに、救助活動を行なった看護学校はありますか。

岡山●当時は東京慈恵医院看護婦教育所や桜井女学校附属看護婦養成所、そして日本赤十字社も、同志社病院、京都看病婦学校と共に活動しました。これは近代的な看護教育を受けた看護婦たちによる初の災害看護活動だと言われています。

濃尾地震が起きて真っ先に同志社から駆けつけたのは、同志社校長の小崎弘道



佐伯理一郎・小糸夫妻

新島の後継者、佐伯理一郎

石川 ●先ほどから何度も名前が出ている佐伯理一郎について、改めて説明をお願いします。同志社病院を引き継がれた方ですね。

本井 ●熊本医学校を卒業していますから、大久保真次郎の後輩にあたります。ただし、一方は牧師、他方は医師です。佐伯は、同志社で学んでおりませんから、熊

はり英語が堪能なので、アメリカ人と協力して新しい看護教育をつくり上げていきます。国会議員にもなっています。
真島智茂も、忘れることはできません。卒業して横浜のジェネラル病院で働き、その後、聖トーマス病院の看護学校へ行き、ヨーロッパで約5年間勉強します。帰国後は、公衆衛生分野で活躍しました。このようにリーダーシップを発揮した人が、調べてみるとたくさんいます。

石川 ●同志社女学校を卒業してから、京都看病婦学校に入った方もいますね。
岡山 ●特に有名なのは、園部マキです。先ほどの石井十次の影響を受けて同志社女学校に入り、優秀な成績で卒業しました。ちょうどその頃、京都を旅行していたアメリカ人、ヴァクレン家の子どもが腸チフスに罹り、同志社病院に入院。佐伯の治療で完治したことがありました。ヴァクレン夫人は、同志社病院へ恩返しをしたいと言って、英語のできる看病婦学校の生徒をアメリカに連れていき、看護教育を受けさせて日本に帰したいと申し出ました。

看病婦学校には、求められたレベルの英語力のある生徒がいなかったため、女学校の生徒の中で、英語ができたうえ、看護学を学びたい人が選ばれた。それが園部マキでした。
石川 ●看病婦学校からどちらへ留学されたのですか。
岡山 ●看病婦学校で1年間学んだ後、アメリカに渡り、フィラデルフィア市の看護学校を優秀な成績で卒業し、各地の社会福祉活動を見学してから帰国。看護婦塾を開いた後、京都市で初めての保育園を作りしました。どちらかというと最後は福祉に尽力した人ですね。
本井 ●保育園と言えば、佐伯とM・F・デントンは、「出町幼稚園」を1897年に作っています。これが、今の同志幼稚園です。たしか、京都では最古参の幼稚園のひとつです。
岡山 ●他には、田中定も女学校を卒業後、すぐ看病婦学校に入ります。7期生ですが、卒業後しばらくは同志社病院に勤めますが、その頃、滋賀県でコレラが大発生したため、予防教育に赴きます。
その時、地域住民に感染症の予防活動を行うために作ったテキストが、『赤痢

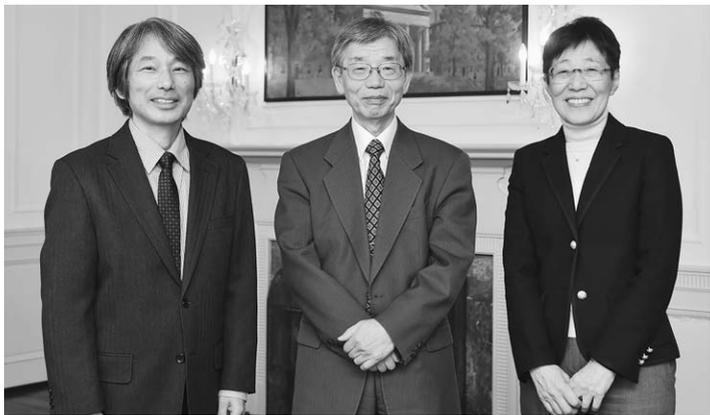
虎列刺病看護法』です。一説には、看護婦が著した日本で最初の看護書といわれています。これは、フレイザーが講義した内容を、田中が聴き取ってつくったノートを元にして著したのでは、と考えられています。
後年、フレイザーは、彼女の通訳だった8期生成瀬シズの協力を得て、講義した内容をまとめた看護教科書を執筆するのですが、その内容と非常によく似ているといわれています。田中がいかにしっかりと聞き取り、正確に記述していたかが、うかがわれます。
石川 ●貴重な資料ですね。
岡山 ●この人は凄いです。とても力があつたと思います。田中が書いた看護書は、寄贈されて、現在、女子大学史料室に展示しています。他にも、彼女は「八種伝染病看護法」というのも書いています。
石川 ●教員の側で同志社女学校との交流は、あつたのですか。
岡山 ●デントン先生は、長く「病院用食物調理法実習」を教えにきておられました。また、看病婦学校からは佐伯が、同志社女学校に教えに行っています。

本バンドじゃありません。ですが、年齢から言えば、バンドに続く人物ですね。熊本医学校を出てから、海軍医になりますが、その頃、東京の第一基督教会（現霊南坂教会）で小崎弘道牧師（熊本バンド）から洗礼を受けて信徒になります。
石川 ●同志社との接点は、そのあたりからですか。
本井 ●そうですね。まずは熊本バンドからです。ついで、洗礼を受ける半月前の日記には、新島襄の熱心な説教に感銘を受けたことが記されています。
その後、亡くなった新島の後任として、小崎が同志社の校長になると、その小崎から同志社と呼ばれます。病院や看護学校を担当してほしい、というわけです。
石川 ●同志社女学校の教頭を務めた宮川経輝との関係も、そこからですか。宮川も熊本バンド出身ですね。
本井 ●そうですね。ふたりは同じ村（現阿蘇町）の出身ですから、交流そのものは、少年時代からあつたと思われま

す。
岡山 ●宮川とは、お互いの実家が50メートルの距離だったそうですね。
本井 ●宮川たちのような郷里の先輩から

同志社の話は、早くから聞いていたことでしよう。医史の面で佐伯が今も注目される要因は、産婦人科のバイオニアという点だけじゃなく、ペンシルバニア大学でウィリアム・オスラー博士から教えを受けた唯一の日本人、という事実です。
岡山 ●本当に立派な方だつたと思います。
石川 ●他に佐伯の同志社病院、看病婦学校への思いを物語るものは、ありますか。
本井 ●先ほど出ましたが、「受けるよりも与うるほうが幸いである」という聖句に象徴されています。貧しい人、あるいは弱者や患者に尽くす、という意味では、典型的なクリスチャン（プロテスタント）・ドクターでした。
しかも、妻の小糸は、最初に名前の出た土倉庄三郎の娘で、同志社女学校で学んでいます。実家は大変裕福でしたから、佐伯家にもサポートしたんじゃないでしょうか。
石川 ●佐伯夫妻は、いろいろな意味で同志社の有力なサポーターですね。
本井 ●たとえば、同志社が病院を経営しきれなくなつた際、これを購入したのは、佐伯です。

同志社医学教育の歩み―同志社病院と京都看病婦学校―



「愛心」を受け継ぐ

石川●そういう蓄積や凄い厚みの歴史があつて、このたび同志社女子大学に看護

さらに、新島の生前、同志社が寺町鞍馬口に大学予定地として買っておいた旧彦根藩邸跡の土地を、経営難のために新島の死後に手放ざるをえなかった時も、そうです。買い取つたのは佐伯です。同志社が持ちきれない施設や敷地が、個人で買えるなんて、凄いことです。

石川●同志社精神を引き継いだ良い人が、後継者になってくれていますね。

本井●同志社理事にもなりました。友人の新渡戸稲造を同志社理事に呼んだのも佐伯です。佐伯は夫妻して理事を務めます。これは珍しいケースです。

岡山●看護の面でも、佐伯はナイチンゲールに会っていますので、キーパーソンかと思っています。この佐伯から、リチャーズが京都看護婦学校の設立に関わつたことをナイチンゲールが聞いて、とても喜んでという記録もあります。

佐伯は産婦人科の世界でもいくつかの学会を立ち上げるなど、看護教育や病院経営だけでなく、医学の第一線で活躍した人物です。

本井●彼は、教科書や専門書の著作を残した点でも、この方面の先駆者、第一人

者です。彼が後に併設した京都産婆学校もすごいです。多くの卒業生を出しました。戦後、惜しくも廃校されました。

岡山●看護婦学校が先になくなり、次に産婆学校が閉鎖されました。第二次世界大戦後、看護教育改革が行われた際、その制度がガラッと変わりました。その中で、個人の病院では対応できなかったのではと思います。

本井●それに加えて佐伯は、医師ながら、気分は牧師なんです。とりわけ、晩年に病院を息子に任せてからは、夫妻して伝道に非常に熱心になり、自宅の隣に教会まで建てています。現在はキリスト伝道隊に所属する清和キリスト教会（KBS 京都西側）となっています。

すなわち学校と教会は、一体でした。看護学校や産婆学校の生徒は、全員、寮に入り、日曜は佐伯の教会で礼拝を守ります。

だから、卒業時には、全員がクリスチヤンになるのが当たり前だったと言います。まるで新島時代の同志社です。

石川●佐伯以外の医師については、いかがですか。

学部が、立ち上がるのですね。いったん種には戻ったけれども、再び必然のように起き上がったという印象です。

岡山●教育はいったん種に戻つたけれども、看護の心は引き継がれてきたし、今後も引き継がないといけないと思います。

石川●看護婦学校設立の目的を思い出します。患者を救うための教育であるというの、大事な精神ですね。これからの時代に、特に必要な精神だと思います。

学校というのは、制度は大事ですが、それだけでなく、精神がずっと受け継がれ、実践されていくことが大切です。

同志社はそういう蓄積、原動力を持っていることを、お話を伺って実感しました。

本井●そうなんです。精神が抜けると、同志社教育の意味がありません。他の大学や学部と同じことをやるだけなら、苦労して創る意味が半減します。

京田辺キャンパスに生命医科学部ができた時、学部の新校舎に「医心館」という名を提案しました。「医術館」や「医進館」では同志社的じゃない。知能主体、あるいはスキルや機器重視だけでもだめ

本井●京都看護婦学校の設立式典で設立経緯を読んだ医師に、高松舜という人がいます。青蓮院に設置された京都療病院に続いて、1876年に南禅寺にできた癡狂院（日本で最初の公立精神病院）の初代院長です。

娘2人が同志社女学校に来ています。一家してクリスチャンです。

さらに、京都療病院の初代院長だった半井澄という医師もクリスチャンで、同志社と関係があります。長崎でマンسفエルトから医学を習っています。

岡山●半井澄は、看護婦学校の第1年次報告にも名前が出てきますね。開校式で式辞を述べられたそうです。

本井●ほかに、佐伯と同時代では、数名の医療宣教師や、堀俊造、川勝原三、川本恂蔵などの日本人医師がいます。

医師ではないのですが、竹内種太郎・文夫妻が、病院と看護学校に関わっていることが、最近、分かってきました。

岡山●病院が出していた機関紙も入手できました。それにしても、凄い人脈です。

本井●岡山先生もそうでしょうが、宿題をたくさん与えられた感じですね。

患者や人の心の痛みに寄り添えるような「良心教育」を目指していただきたい、との祈りを込めました。

岡山●看護学部の新校舎は、「蒼苑館」に決まりました。隣接する薬学部の「憩水館」に合わせて、「旧約聖書」の「詩編」から命名しました。

「王はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い……」（新共同訳聖書）という聖句からです。今後の両学部の連携を視野に入れていきます。

石川●「詩編」でも、とくに有名な23編ですね。

岡山●京都看護婦学校設立当初の精神を引き継ぎ、先人の方々の業績から多くを学びながら、21世紀の看護を担う人物の育成に努めたいと考えています。

石川●皆さん、本日はありがとうございました。

（2014年12月16日、今出川キャンパス・アーモスト館）